

# 児童生徒の考えや意見を表出させるために指導者にできること

## — 小中連携を考えた授業を練る段階と授業中の活動の工夫 —

### 千代田町立千代田中学校

- 主 題 児童生徒の考えや意見を表出させるための指導の手立て  
— 授業構想シートとハートメーターを通して —
- 校 長 澁澤 幸一
- 生徒数 284名
- 学級数 10学級
- 執筆者 教諭 杉本 絵理子
- 住 所 〒370-0503 邑楽郡千代田町大字赤岩1920
- 電 話 0276-86-3222
- U R L <http://www.chiyoda-school.ed.jp/jh/>
- 支 部 千代田町教育研究所



## 1 主題設定の理由

「特別の教科 道徳」では、二つの評価の方向性が示されている。一つは「他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」もう一つは「多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」である。（『平成28年7月22日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議』より）これらが評価する上での方向性として示されている以上、指導者側もこれらを意識した授業づくりが必要不可欠であり、児童生徒がこのことについて達成しようとしているかどうか、見取することができる手立てをしなければならないのは必然であろう。千代田町は若手の教師が多く、道徳科の授業にどんな要素を取り込んだらよいのか、どのような手順で授業を組み立てていくことがよいのかと、悩みを抱えている教師が多く存在する。そのため、まずは指導者である教師自身が、自信をもって授業に臨めるような授業を練る段階での工夫が必要であると考える。

本町の児童生徒は、明るく活発で素直な子供たちが多い。褒められたことをそのまま受け止め、よいことを進んで行おうとする素直な心をもっている児童生徒も多い。このように、大人に言われたことを素直に受け止めることができる一方で、常に受け身の姿勢でいることが多く、特に小学校低～中学年においては道徳的価値に関する自分なりの考えをもつことのできる児童が少ないと感じている。また、自分の意見をもっている、それを表現（発言）できなかつたり、周囲の意見に合わせてしまったりすることもある。時には積極的な児童生徒の意見ばかりが取り上げられ、全員の思いや意見を吸い上げることは難しい。道徳科の授業においては、自由に交流活動をする際に自分から進んで輪に入らず、特定の友達以外とは話さない傾向も多く見られた。

「特別の教科 道徳」において求められる多面的・多角的な見方や自分ごととして考えること、また、千代田町の児童生徒の実態を踏まえると「児童生徒の考えや意見を表出させるための指導の手立て ～授業構想シートとハートメーターを通して～」という主題設定に至った。

千代田町教育研究所では、小学校2校、中学校1校という小規模な地域であるという特色を生かし、小中連携を意識した様々な活動に取り組んできた。そのため、先生方が小・中学校両方で活用することのできる活動の工夫や手立てを考えた。

なお、本研究と実践は、平成30年度から令和元年度にかけて千代田町教育研究所授業研究班により、実践されたものである。

## 2 研究のねらい

児童生徒の考えや意見を表出させるために、指導者側からは授業を練る段階における工夫、児童生徒側からは自分の意見を持ち、それを表現しやすくする工夫という二つの視点で、それぞれ授業構想シートとハートメーターという手立てを考えた。また、授業構想シートとハートメーターを、小・中学校で取り組んでいくことで、千代田町としての道徳教育への取組の足並みをそろえることにより、小学校から中学校へと環境が変わっても児童生徒も教師もより授業に臨みやすくしようとするものである。授業構想シートにより、指導者は授業に明確な視点をもって臨むことができ、かつ若手教師にとっては不慣れな授業づくりの指針の一つとしての活用を図る。また、ハートメーターにより、今まで自分の思いを言葉にすることが難しかった児童生徒も表現可能であり、それをきっかけとして互いの考えを聞き合う活動につなげるものとする(図1)。

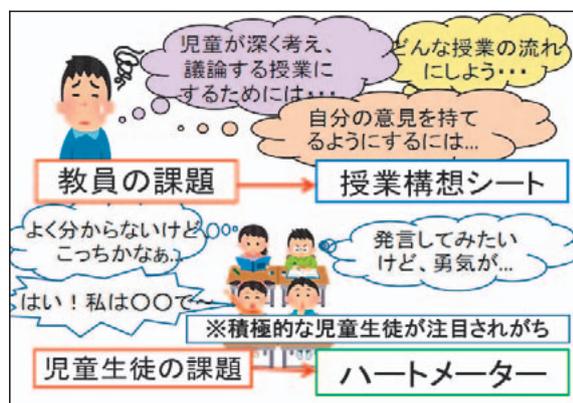


図1 主題設定の流れと研究のねらい

## 3 研究の内容

### (1) 教師側から見た、授業を練る段階での工夫 (授業構想シート)

「はばたく群馬の指導プランⅡ」より、算数・数学科の授業構想シートを参考に、道徳バージョンを作成した。

「学習指導要領の内容項目」「現れてほしい児童生徒の姿」「ねらい」と、上から順に書き込んでいくことで、「はじめよう道徳科」(平成30年3月 群馬県教育委員会)に掲載されている「②授業作りの流れ」に即して作っていきけるように設定した。

次に、「授業の流れ」の1～4に沿って発問や指導上の留意点を簡単に書き入れていく。その際に、道徳科の授業では落とせない「価値理解」「他者理解」「人間理解」「自己理解」などの要素を記号(①～④)で書き入れることで、評価の際にポイントとなる「道徳的価値について多面的、多角的に考える」「自分ごととして考える」場面を明確にすることができる。次ページ「授業構想シートの活用例」(次頁図2)を参考にしていきたい。

### (2) 授業構想シートの活用例

次頁図2のA～Eの順に沿って書き込んでいくことで、教材の価値やねらいからできるだけぶれずに授業をつくることができる。また、必要な要素は何か、確認しながら作成できる。

### (3) 児童生徒側に立った多面的・多角的に考え自分ごととして捉えるための工夫 (ハートメーター)

ハートメーターとは、児童生徒が自分の心の中をハートで置き換え、色や数値を用いて可視化し、自分の考えを表出するための一つの手段である。思いをもっていないでも恥ずかしさで表現できない児童生徒や、言葉で表現することが難しい児童生徒にとっては、自分の思いや考えを可視化して表現することで、周りとの交流しやすくなるのではないかと考えた。また、指導者側から見ても、1時間の中での児童生徒の変容を見取ることができる材料にもなり得る。研究の中で4種類のハートメーターに分けることができた。児童生徒の実態や、ハートメーターの特徴にそって、指導者

道徳 授業構想シート 活用例

令和 元年 6月 27日 (木) 第 校時 4年 2組 指導者  
 主題名：長所をのばす 教材名：「4年 つくればいいでしょ」

<p><b>A</b> 学習指導要領の内容項目          ・個性の伸ばしに特徴を          ・【「伸ばすことと自信をのばすことと」】</p>	<p><b>B</b> 表れてほしい児童の意識(姿)          ・長所を伸ばすために、よき言葉をもち、挑戦してみよう。          ・思いやりをもつことと、よき言葉をもち、挑戦してみよう。</p>	<p><b>C</b> ねらい          ・教材を通して、人は成長でき、自分を伸ばすことができる。          ・「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。</p>
--	---	---

第9回

つくればいいでしょ

めあて 長所を伸ばすためにはどうすればいいか考える。



赤：長所  
青：短所

○「わたし」が少し自信が出てきたのはどうしてですか。

- ・ 苦しいけど、やめずにがんばったから。
- ・ すぐあきらめるせいかくを褒められたと思ったから。
- ・ 練習を続けたら、タイムが伸びたから。
- ・ 友子さんと同じように走れるようになったから。

○長所を伸ばすために、これからどうしていきたいか。

- ・ あきらめずに続けてみよう。
- ・ 何でも思いきってチャレンジしてみよう。
- ・ 長所を伸ばすために努力しよう。

自分のよさをのばす心

D 授業の流れ

1 価値への方向付けを行う。(学習課題を把握する)

・ 自分(④)は短所と長所(①)をどう活用(②)しようか。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

・ 自分(④)は短所と長所(①)をどう活用(②)しようか。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

・ 自分(④)は短所と長所(①)をどう活用(②)しようか。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

2 ねらいと把握を行う。価値の追求・把握を行う。

・ 「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

・ 「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

3 ねらいと自身価値を振り返る。

・ 「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

・ 「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

4 学習のまとめをする。

・ 「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

・ 「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。【「伸ばすことと自信をのばすことと」を、人間的成長の態度を養う。】

【①価値理解 ②他者理解 ③人間理解 ④自己理解】

□①～④が入った状態で、児童の発達を促すことができるか？

□①～④が入った状態で、児童の発達を促すことができるか？

図2 授業構想シートの活用例

が自由に取り入れることができる。

### ア 小学校低～中学年向けハートメーターの 実践（小学校4年生）

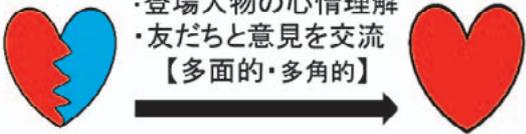
発問に対する二つの思いの葛藤を、色分けによって表現させ、前段と後段で二度同じような発問をすることで、1時間の中での児童生徒の気持ちの変容を見取りやすくする。

主題名：相手のことを考えて  
題材名：4年『ちこく』 日本文教出版  
内容項目：相互理解・寛容  
ねらい：相手の立場や状況を理解することの大切さについて考えることを通して、互いを理解し尊重し合おうとする態度を養う。  
使用目的：児童が議論や考えを深め、心の変容を見取るための手立てとして用いる。

前段の発問を、自分がこう太の立場だったらかずやのことを「許せるか、許せないか」とした。色を塗りつぶさせる際に赤と青に心情を分けて塗らせることで、自分の心の中の相反する気持ちを自覚させるとともに、言葉にしづらい思いを図として表し、示すことができる。理由を口頭で交流させた後、授業の後段には、もし今後こう太のような出来事が起きたら「許せるか、許せないか」と、前段と同じような発問、理由の交流をすることで、児童の心の変容を見取ることができる（図3）。

使用目的：児童が議論や考えを深め、心の変容を見取るための手立てとして

・登場人物の心情理解  
・友だちと意見を交流  
【多面的・多角的】



【発問】自分がこう太の立場だったらかずやのことを...  
許せる？許せない？

【発問】もし今後、こう太のような出来事が起きたら...  
許せる？許せない？

図3 児童の変容例

### イ 小学校高学年～中学生向けハートメーターの 実践（小学校5年生）

自我関与して考える問いに対して、揺れ動く自分の様々な思いをハートの中に大きさを分けて書き入れ、その後の交流を通して感じたことと分けて書くことで、最終的にどのよ

うな思いが児童生徒の中で大きな割合を占めたかが分かる。

主題名：あなたなら どうする？  
題材名：5年『なくしたかぎ』日本文教出版  
内容項目：二項対立 B (10) 友情・信頼 C (15) 家族愛・家庭生活の充実  
ねらい：かずおと親の気持ちを想像させることを通して、あきらの葛藤状況における判断理由や根拠についてより広い視点、より深い考えを見付け、判断力の高まりを目指す。  
使用目的：多面的・多角的な見方へ広げていくための手立てとして用いる。

両親との約束とかずおの間で揺れ動く葛藤状況において、「あなたがあきらんだら、どうする？ A家に帰る B一緒に探す」という二つの選択肢を示し、自分の考えをハートメーターに書かせた。その際、Aの考えならば言葉を赤で囲み、Bの考えならば言葉を青で囲むように指示した。さらに、○の大きさを心の中での占めている割合を示すように指示した（図4）。

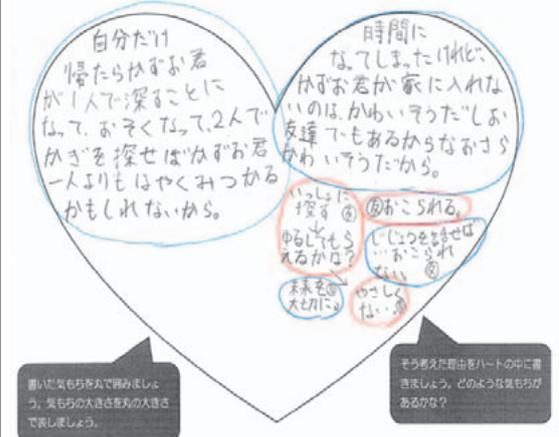


図4 実際の児童のワークシート

その後友達との議論の中で納得がいく考えがあれば、このハートメーターに書き足すよう促し、多面的・多角的な見方へと広げていけるようにした。ハートの中に様々な気持ちを書いていくことで、何かを判断するときには、様々な考えがあるが、自分が大切にしたい気持ちは本当はどれなのかに気付かせるようにした。また、最終的にどの思いが一番強いのかを指導者が見取ることもできた。議論

していく中で、友達と交流し多面的・多角的な見方ができたことで、最終的にはA、B以外の選択肢を見つけた児童も多かった(図5)。

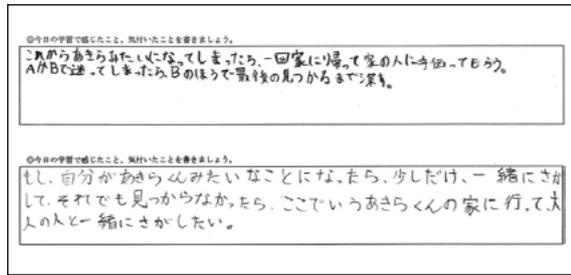


図5 実際の児童のワークシート

### ウ 中学生向けハートメーターの実践

自分の心の揺れや迷いを横向きの帯グラフに色を塗って表現させ、併せて理由も書かせる。導入と終末で同じ発問を繰り返すことで、1時間の中での生徒の気持ちの変容を見取ることができ、また書いた理由をもとに交流活動を進めることができる。

主題名：いじめのない世界へ  
 題材名：1年『いじめに当たるのはどれだろう』東京書籍  
 内容項目：B-(9) 相互理解・寛容  
 ねらい：自分の気持ちが大きないじめやクラスの雰囲気を悪化させる原因になることに気づき、自分の言動に気を付けようとする。  
 使用目的：クラスにいじめが存在するかどうかを導入と終末部分で問い、生徒自身のいじめを認識する意識の内在化を図る。

導入で「クラスにいじめが存在するかどうか」と発問し、いじめがあると考える度合いの分、メーターに色を塗らせた。するとほぼ全ての生徒がほとんど色を塗らず「みんな楽しそうだからいじめはないと思う」と理由に記述した。授業の中で、ハートメーターと理由を元にして交流させていくと、その数字まで色を塗った理由に留まらず、いじめの基準とは何かまで話を膨らませることができた生徒もいた(図6)。



図6 議論の様子

授業を通して終末で再び「クラスにいじめが存在すると思うか」と発問すると最初は0%だった生徒も15%程度まで色を塗っていた。理由には「このくらい大丈夫、から始まるいじめはこわいということを知りました。本当に楽しくて笑っているのか、心ではどう思っているのか、よく考えて行動し、ずっといじめのないクラスでいたいです。」と記述されていた(図7)。

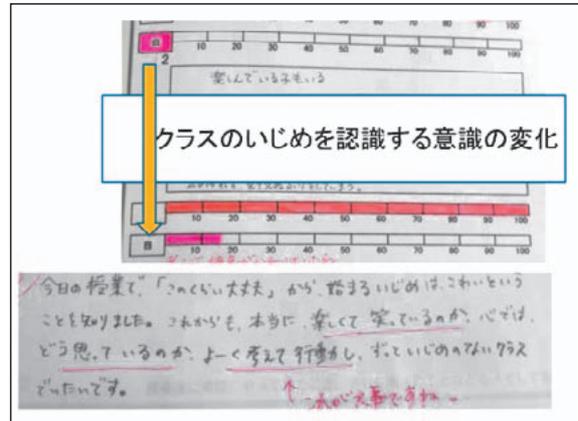


図7 導入と終末の生徒の変化

## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

授業構想シートは「1 主題設定の理由」で述べたように、どの教師も、特に若手の教師であってもポイントを押さえた授業展開が組み立てやすいように工夫して作成した。実際に授業をやっていた先生方からは「押さえない所を整理ができる。」「型がないので自由に書き込むことができる。」「ポイントを押さえて端的、簡単に書ける。」「発問と価値理解の数字を書き入れることで、流れの中で押さえるべきところが分かりやすい。」などの評価を頂いた。初任者にも使ってもらっているが、手書きでも書ける手軽さや、簡単に次時への修正ができる点など使いやすいとのことである。

ハートメーターは、児童生徒が自分自身の思いを表現しやすく、また、指導者が児童生徒の変容を見取りやすくするためである。そこで、実践をした先生方から次のような評価を得た。「普段自分の気持ちを言葉で書けない児童もハートメーターであれば、自分の考えを表出することができた。」「気持ちの割合を可視化することで、対立する二つの状況について自然と考えることにつながった。」「気持ちの揺れ具合など言葉では表しにくいことも色で表現することができることで、話し合いにもつなげることができた。」「誰がどのような考えをもっているのか分かり、話し合いだけでなく指名にも生かされた。」

実践でも示された通り、児童生徒の変容を指導者が見取ることもできたことで、年度末の道徳科の評価をする際に評価の材料としても活用が可能であるということが分かった。先生方の意見を受けて研究所内で話し合った結果、授業構想シートを小学校の先生も中学校の先生も使いやすいように改善していくことにもつながった。

### (2) 今後の課題

授業構想シートにおいては、活用される場面が増えていくことで、改善点もより多く見付かってくる。多くの先生方に活用していただき、今後もより良いものを作っていきたい。

ハートメーターにおいては、その活用に課題があった。ハートメーターを使うことが目的の授業ではなく、手段の一つとして考えておかなければ、本末転倒である。また、色を塗ることで満足せず、その理由を必ず交流させる時間をとることが、ハートメーターの作成と併せて重要なポイントである。今後も継続して取り組んでいくことで、どの程度意見の表出がしやすくなっていくのか、経過の観察が必要である。